



そして、元気にもなる
授業研究会！！

授業者も、参観者も、授業力が向上する

授業研究会



「子どもの学ぶ姿」を大切にしたい授業研究会を紹介します。

「子どもの学ぶ姿」とは…

授業のねらいや目標に沿った授業中の子どもの姿のことです。

子どもは何をどのように
学んだのか。



授業の主体者は子ども

何を習得したのか

何につまずいてい
たのか



どのようにつまずい
ていたのか

ポイント！

複数の教員で、ねらいを明確にした授業づくりを行うことにより、目標と評価の一体化を図りながら、学習評価の妥当性や信頼性を高める授業づくりができるようになります。

文部科学省の新しい学習指導要領改訂の視点でも、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」をキーワードに、育成すべき資質・能力を育む観点からの学習評価の充実の必要性を述べています。



学習指導要領改訂の視点	
<p>新しい時代に必要となる資質・能力の育成 (「何を知っているか、何ができるか」(認知・技能)・ 各教科等に関する基礎的知識や技能など、身体的技能や芸術表現のための技能等も含む。 (「知っていること」(知識)と「使えること」(思考力・判断力・表現力等)・ 主体的・協働的に問題を発見・解決していくために必要な思考力・判断力・表現力等。 (「どのように社会・世界と関わり、よかれ・人生を送るか」(人間性や学びに向かう力等)・ (「やむを得ない状況下で方向性を決定し、行動を遂行する力」(自己の感情や行動を統制する能力)など、いざという時に必要となる力)。 ・主体的に学習に取り組む態度も育むこと(学びに向かう力、自己の感情や行動を統制する能力)など、いざという時に必要となる力)。 ・多様性を尊重する態度と互いの良さを生かして協働する力、持続可能な社会づくりに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、確しき思いやりなど、人間性に関するもの。</p>	
<p>何ができるようになるか</p> <p>育成すべき資質・能力を育む観点からの 学習評価の充実</p>	
<p>何を学ぶか</p> <p>育成すべき資質・能力を踏まえた 教科・科目等の精選や目標・内容の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル社会において不可欠な英語の能力の強化(小学校高学年での教科化等)や、我が国の伝統的な文化に関する教育の充実 ・国家・社会の責任ある形成者として、また、自立した人間として生きる力の育成に向けた高等学校教育の改善(地理歴史科における「地理総合」(総合科目)、公民科における「公民」の改訂等、新たな共通必修履修科目の設置や科目編成の見直しなど抜本的な編成を行う。)等 	<p>どのように学ぶか</p> <p>アクティブ・ラーニングの視点からの 不審の授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科・科目・授業という学習プロセスの中で、問題発見・解決を主体に高い学びの達成が実現できているかどうか ・進歩的な知識やスキルとの相互作用を通じて、自分の考えを表現し、知識的な学びの達成が実現できているかどうか ・子どもが主体的に学習に取り組む機会、自分の学習活動を振り返って振り返り、主体的な学びの達成が実現できているかどうか

2 授業

□子どもの学ぶ姿を見る

実際の授業においては、事前検討で設定された評価規準・評価基準を基に、「どの場面で」「何を」「どのように」「どの程度」学んだかを、具体的な「子どもの学ぶ姿」として観察・評価することが大切です。また、複数の目で子どもの学ぶ姿を見返すために、授業を映像で記録すると便利です。

「できた」「できない」ではない…



評価規準や評価基準に沿った「子どもの学ぶ姿」その瞬間を見抜く！！

子どもがどのように考えたか。判断したか。表情やしぐさ（行動）、発言、独り言、ノートの記述などから、目標に対しての子どもの思考過程を探ります。

<「子どもの学ぶ姿」からの改善>

「昨日は理解できたけれども、今日は分らないです。」と悩むA先生

A先生は、子どもが問題を正解して、喜んで評価していました。しかし、「子どもの学ぶ姿」を映像でじっくり見ると、問題からの思考判断ではなく、先生の表情や言葉掛けから、間違いだと思い、解答を変えていたということに気づきました。その結果、A先生は、「子どもが分かった」と評価したことが、本当に「分かった」ことなのか見つけ直し、授業を改善していった例がありました。



授業参観シートの例

子どもの学ぶ姿を想定し、授業を見ることで、「子どもの学び」の状況を捉え、授業に生かせるようになりますよ！



3 事後検討

□子どもの学ぶ姿の確認

子どもが「どの場面で」「何を」「どのように」「どの程度」学んでいたかをチームで確認することで、子どもは何をどのように学んだのかを評価することができます。また、論点を大きく逸脱することなく、話し合いが深まり、複数の目で見ること、一人の視点では気づかなかった子どもの学びをくみ取ることもできます。

ビデオ、付箋が役立ちます！

□学習内容・活動の見直し

個々の子どもの目標に照らして、学習内容や活動は適切であったのかをチームで検討します。

□授業者のかかわり、教材・教具の見直し

子どもの力を最大限引き出すための支援やかかわり、教材・教具について検討します。

授業改善の視点

この視点で考えると、自然に授業の質が向上していきます！



□子どもの目標の見直し

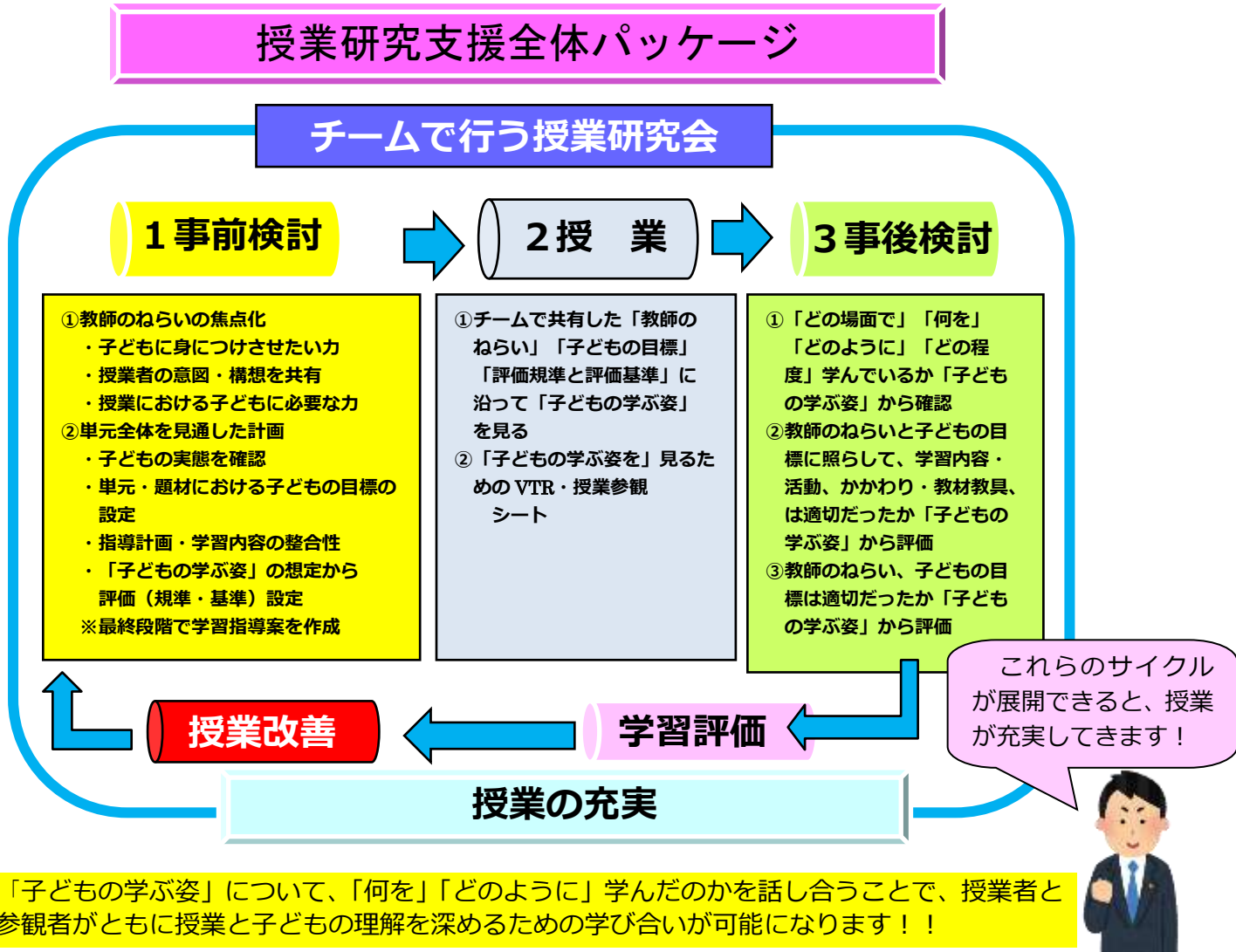
子どもの目標設定は適切であったのかを子どもの学ぶ姿からチームで検討します。これにより、教師のねらい、子どもの目標、活動内容の妥当性と整合性を図る力が養われます。



チーム内の経験や知識、専門性も共有されます！

日々の授業の充実！

これまでの説明をまとめると下図のようになります。



「子どもの学ぶ姿」について、「何を」「どのように」学んだのかを話し合うことで、授業者と参観者がともに授業と子どもの理解を深めるための学び合いが可能になります！！

まとめ

授業で大切にしたいこと

「子どもの学び」を考えた授業づくりで最も大切なことは、教師の思いだけ、又は子どもの思いだけの授業づくりをするのではなく、教員が期待する姿（ねらい）と子どもの姿（実態）をバランス良く重ね合わせていくことです。

そして、学びを成立させる上で、単元で扱う教材や学習内容は、どのように関係していくか、ねらいや目標と重ね合わせていくことで、授業での「子どもの学び」が、より明確になります。

そのために…



**チームによる授業研究会の充実が
日々の授業の充実と
専門性の継承につながります！**

平成 24 年・25 年プロジェクト研究「チームで行う特別支援学校の授業改善の在り方」より抜粋しています。
 なお、詳しい内容については、研究紀要第 27 号プロジェクト研究 I 「チームで行う特別支援学校の授業改善の在り方」（平成 26 年 3 月）に記載してありますのでご覧ください。